

前 Pfizer 副社長：「ワクチンの必要はない…パンデミックは実質的に終わっている」

LifeSiteNews.com

November 23, 2020

Dr. Mike Yeadon——ファイザー社前副社長、アレルギーおよび呼吸器に関する主任科学者——は、全世界的なワクチンへの動きは「悪の匂い」をもっており、自分は「強力に反対する」と述べた。



Dr. Mike Yeadon



By Patrick Delaney

ファイザー製薬会社は、彼らの COVID-19 ワクチンの発売が近いことを、声高らかに発表したが（注、昨年 11 月）、この会社の前副社長である主任科学者は、COVID-19 パンデミックを終わらせるためのワクチンの必要は全くないと、きっぱりこれを拒絶した。

マイケル・イエードン博士は、「世界で最大の医薬品会社のいくつかで、新しい（アレルギーと呼吸器）医薬研究をリードして、30年以上を過ごしてきた」人だが、最近の論文でこう書いている：——

このパンデミックを鎮静化するためにワクチンの必要はまったくない。私はワクチンについて、こんな馬鹿げた話を聞いたことがない。病気のリスクのない人々にワクチン接種はしないものだ。また、健康で問題のない何百万という人々に対し、幅広く人間被験者にテストされていなワクチンを接種するという計画も、考えられないことだ。

英国籍を持つ人たちのコメントが、「緊急時科学アドバイザー・グループ」(SAGE)の包括的な批評の最後に述べられている。これは緊急時に、中央政府にアドバイスを与える使命をもつイギリスの政府機関で、SAGEは最近、実行されたCOVID-19への反応を含め、イギリスの公的なロックダウン政策を決定する、重要な役割を果たしている。

イエードンは、SAGEが、彼らの中に「専門的免疫学者のメンバーをもたず」、肝心な専門知識がないことを指摘した後で、彼らが前提とするものには、2つの基本的な誤りがあると強調し、それが、彼らの結論全体を基本的に狂わせ、「過去7か月ほどにわたって、民衆をひどく苦しませた」と言っている。

第1の基本的誤り：病気のかかり易さを100%と考える「滑稽な」想定

SAGEがもっている第一の間違った想定は、「人々の100%がウイルスにかかりやすく、初めから存在する免疫などなどない」と考えていることである。

イエードンは、この考えが滑稽なのは「SARS-CoV-2は確かに新しいが、コロナウイルスはそうではないからだ」と言う。「〈先祖のないウイルス〉というようなものはない。」実際、彼の指摘によると、少なくとも「4つの風土病 (endemic)、通常の風邪 (common-cold) を引き起こすコロナウイルスがあり、…それは、イギリスでもどこでも、自由に循環している。」 「1つかそれ以上の、これらエンデミック、コモンコールドを産み出す、コロナウイルスに、過去において感染したことのある人々は、ある長生きの、健全な、(T-cell) 免疫を、それらのウイルスに対してだけでなく、近い関係をもつウイルスに対しても持っている。SARS-CoV-2は、そのような近親関係のウイルスである。」

SAGEの能力を再び叩いて、イエードン博士は言った：——「このような遺伝子交差 (crossover) を予想しないのは、…使用に耐えるモデルを構築するだけの理解力を、持たないことを証明している。」

更に、彼によれば、COVID-19「患者」を見つけるのに用いられる、通常の PCR テストが、これら普通の風邪のコロナウイルス一つにかかっている、陽性とする場合があり、その場合、このテストは遥かにより信頼できないものになる。もちろん、これらのテストの最終結果に基づいて、何千何万という人々が、彼らの生活を中断し、14日くらいまで「自己隔離」するように命令されてきた。

最後に、科学的データに基づいて、イエードン博士は、通常の風邪のコロナウイルスに、最初に曝されたために、かなりの割合（30%）の人々が、SARS-CoV-2を防止できる T 細胞に保護されて、2020 年へと入っていった——彼らはこのウイルスを見たことはないのだが。…SAGE は、ナイーブにも間違っ、「あらゆる人が病気にかかり易い」考えていた。

第 2 の基本的誤り：感染率の「アマチュアの過小評価」

SAGE の第 2 の間違っった思い込みは、「感染した人々のパーセンテージは、人口のどれくらいの割合が、COVID-19 への感染によってできた、抗体を持っているか」の調査で決定できるとする信念である。

この思い込みのために、「SAGE は、人工の 10%以下しか、これまでに SARS-CoV-2 にかかっていないと信じている。」

しかし、イエードンは、「呼吸器のウイルスにかかった、すべての人が抗体を作り続けるわけでないことは、よく理解されている。そして多くの人々は、前もって免疫を持っているので、いずれにせよ、正しく感染することは決してない」と、明らかにしている。

ほとんどすべての、かなりの症状をもち入院した人々は、抗体をつくり出すのに対して、「ウイルスに対して、より穏やかな反応を示す人々は、すべてが抗体をつくるわけではない。」にもかかわらず、感染者のすべてが、「その血液に T-細胞を持ち、SARS-CoV-2 に反応でき」、したがって、ずっと免疫を発生させている、と言われている。

同じ一般的結論に至る、独立した 2 つの方法を用いて、イエードンは、実際の感染率は「20 台半ばから 30 台やや上のパーセンテージ」であり、SAGE の 7 %という推定は、「ひどく間違っった、アマチュアの過小評価である」と言っている

なぜそれが問題か…「パンデミックは実質的に終わっている」

人口の 100%がウィルスにかかり易い、また、ほんの 7%だけが感染している、という虚偽の前提によって、SAGE が言いたいのは、「このパンデミックはまだ始まったばかりだ」ということである。しかし、イエードンはこれを「目に見えて明らかなナンセンス」だと言っている。

「人口のほぼ 30%が、あらかじめ免疫をもっていることが証明可能であり、そして、もし「抵抗をもっている」子供たちを含めるなら、それは 40%となり、感染率が「20%半ばかりから 30%をやや超える」としたら、それは人口の 65 から 72%が、現在、COVID-19 に対して免疫を持っていることになる。

そして、群集免疫という現実を考えて、ウィルスへの罹りやすさが、これほど低くなり、28 から 35%あたりに下がったときには、「その人口は、もはや、病気の拡大する爆発を支えきれなくなり」、そのようにして、このウィルスは「萎縮し消滅する」。

したがって、イエードンは結論する：——「このパンデミックは実質的に終わっており、一つの正しく機能する NHS（国立保健局）によって、簡単に取り扱うことができる。したがって、国家は直ちに、通常の生活に戻ることを許可されるべきである。

彼は更に、きっぱりと言う——彼は、SAGE がイギリスに与えたダメージに、怒り狂っており、「彼らは救いようもなく無能か、不正直であった」ことを告発する。ゆえに「彼らは直ちに解散し再建すべきである。」その理由は、「彼らはモデルを作るのに要求される基本すら把握しておらず、彼らのモデルはしばしば、恐ろしく役に立たないからである。」

Pfizer の COVID-19 ワクチンへの懸念：深刻な難症状

人口の推定 65~72%が、現在、COVID-19 に対する免疫をもっていて、これは群集免疫の決定的なレベルを示すパーセンテージであるにもかかわらず、アメリカの Operation Warp Speed（ワープ・スピード作戦）は、ビル・ゲイツの音頭を取る、このグローバルIST運動に従うことに熱心で、国家の 3 億 2,800 万人全員を、ファイザーや他の製品で、ワクチン接種しようと、ここ数か月、配給の承認を待っているようだ。

いかなるワクチンも、どんなコロナウィルスに対しても、開発が成功したわけではなく、そのような努力は、普通は、安全で十分な完成のためには、何年もかかるにもかかわらず、食品医薬品局（FDA）は、このプロセスを急ぐことを許可し、動物実験の標準的な段階をスキップして、直接、人間にこれらのワクチンをテストすることを許した。

これらの実験のいくつかの結果として、直ちに、「深刻」で困難な症状が現れ、頭痛、発熱、身体の苦痛など、「深刻な副作用」というべき症状が起こった。更に、ニューヨーク・タイムズが強調したように、Pfizer の最初の、「このワクチンは 90 パーセント以上効果がある」という主張が、「ピアレビューされた医学雑誌でなく、ニュース報道として現れた。このワクチンが安全で効果があるというのは、結論としての証拠ではない。」

予想された「高容量」の有害反応

そして、普通は、ワクチンの使用には、ある率の深刻な症状が現れるにもかかわらず、言われている目標の膨大なスケールと、これらの薬品の数億人への投与を考えるならば、顕著なネガティブな結果は当然であろう。たとえば、65 歳以上の成人に対して与えられた、インフルエンザ・ワクチンのある研究では、ほぼ 1 % の深刻な副作用が経験された。もし、COVID-19 ワクチンが、この同じ年齢枠の人々 (5,400 万人) に単に同じだとするなら、それはこの年齢枠の中だけでも、54 万人が、病院のシステムで医療を受ける必要が生ずるが、そのベッド総数は 92 万 5 千以下しかない。

奇妙なことに、少なくともイギリスでは、COVID-19 ワクチンによる高い数値の有害反応に備えている証拠がある。この政府の「薬と健康管理製品規制局」(MHRA) は、要請事項を掲載し、「きわめて緊急な理由のために」彼らは「AI (人工知能) ソフトツールを求めており、これは予想される、高容量の COVID-19 ワクチンの有害薬品作用 (ADR) を処理するためだ」と言った。それは更に説明して、「COVID-19 ワクチンによって生ずる ADR の量に対処するのに、MHRA の在来のシステムを再利用することはできない」、「これは患者の生命と公衆衛生に対する、直接の脅威となるものだ」と言った。

新しい「証明されていない」 mRNA テクノロジー：20%の「深刻な傷害率」

「ファイザー」ワクチンについての他の懸念は、それが、「通常 mRNA と略され、メッセンジャーと呼ばれるあるものに依存する、まだ証明されていないテクノロジーの舞台」を始めて利用することである。COVID-19 ワクチンを開発しようとしている、もう 1 つの会社 Moderna もまた、この mRNA の舞台を利用しようとしている。5 月に Children's Health Defense (非営利) が、Moderna ワクチンの臨床実験が、その高投与グループで、20%の「深刻な傷害率」を示したと報告した。

Children of God for Life という、ワクチンの道徳的価値を専門とするプロ・ライフ組織の、実務会長 Debi Vinnedge は、LifeSiteNews に対し、「もし、モデルナとファイザーが、第一ラウンドのワクチンを提供した者たちで、彼らがそれを指令しているとしたら、これは

ひどい話だ。彼らは共に、これまでワクチンとして利用されたことのない、mRNA を利用する新しいテクノロジーを用いており、これを通常の4～6年でなく、数か月のテストという突貫作業でやっている」と話した。

指令と一般大衆の不信

ワクチン指令が強まる傾向にあり、そのような侵略的なやり方に対する抵抗が、反応として現れてくるにつれて、最近の研究は、ワクチン一般に対するアメリカ人の間で、不快感が強まる傾向を示している。

Civic Science (CS) のある報告は、「ワクチン一般に対し〈非常に〉好感をもっているとする、アメリカ成人のパーセンテージは、一貫して下降している」と指摘している。実際、CSの述べるところでは、「ワクチン接種全体に大いに好感をもつ人々の、月ごとのパーセンテージは、2020年の出発から20%落ちている（1月には69%だったものが、10月には47%）」

加えて、「調査対象者の22%しか、今すぐワクチンを受けようとは思わないと言っており」、CSは、「将来、ワクチンを受けることへの躊躇は、全国的に急上昇していて、これは、多くの人々が将来のワクチンを、今、信用することが、いかに難しいかを語っている」と言っている。

一般大衆の操作

(省略)

黒人共同体や子供たちの強制

他の、ワクチン強制戦略の運動が行われている例としては、ワクチン指令を、貧困層に対する「他の安全ネット・サービス」と「抱き合わせる」ものがあり、そこには「食品の安全保障、賃借り援助、弱い立場の人々への無料診療サービス」などが、「黒人と少数社会」が特に記されて存在する。

そして、ワシントンDCは、ある法案を検討しており、それは親の合意を受ける必要をなくするもので、未成年の子供がワクチンを受けられるようにしている。「ワクチン接種の未成年合意：2019修正条項」：… (略) …

これに対する「ワクチンへの反発」によれば、「この法案は、11歳とそれ以上の子供たちが、医者や他のワクチン投与者に、彼らの両親の知識も合意なしに、ワクチンを与えることを許すだけでなく、保険会社やワクチン投与者や学校に対し、子供がワクチン接種を受けていることを、両親に隠すことを要求している。」

この報告は、「もし、この法案が通過すれば、未成年の子供が圧力を受け、または騙されて、彼らの両親に隠れて、COVID-19注射などを打たれる危険がある」と説明している。

Pfizer：「有罪判決を受けた連続重罪犯」

ロバート・F・ケネディ Jr.——前米大統領ジョン・F・ケネディの甥、環境問題弁護士、著述家、「子供の健康弁護会」創設者——は、何十年も前から、子供たちを害するワクチンについて覚醒を訴えてきた。この組織の、上記 DC 法案への断固とした反対に加えて、ケネディは、特に Pfizer を指摘し、これはいくつかのワクチン製造業者の一つで、彼らの製品に対する、犯罪的ペナルティの記録を持つ者だと言った。

7月の討論会で、ケネディは Pfizer の他に、3つの主導的コロナウィルス・ワクチン開発者をあげ、Glaxo、Sanofi、Merck らは「有罪判決を受けた連続重罪犯」だと言った。

「過去10年の間に、ほんの10年間で、これらの会社は、犯罪的懲罰で350億ドルを、損傷、罰金、医者たちへのウソ、科学詐欺、科学のウソなどによって支払い、何十万というアメリカ人を知りながら殺したのだ」と、討論しながらケネディは言った。

「これら4つの会社の、犯罪企業文化を人々が理解するには、耳に聞こえるほどの不協和音が要求される。信じられないことに、彼らは、自分たちの持っている互いの製品を使ってこれをやったのであり、ワクチンでやったのではないのだ。」

ファイザーが「90%の効果をもつ」コロナウィルス・ワクチンを発表したので、直ちに発売されるものと予想され、この会社のシェアの株価は、36.40ドルから41.94ドルに上がり、この時点で会社のCEOとチェアマン、Albert Bourla は、この会社の彼のシェアの61.8パーセントを、ほとんど560万ドルで売った。インデペンデント紙は、ファイザーは質問に答えて、この取引は「自動的なプロセスで、今年早くに決まったもので、あらかじめ合意されていた価格を超えれば、シェアは売られる」と、答えたと報じている。

イエードン：ワクチンの提案は「悪の匂いがする」

政府、メディア、それに企業キャンペーンは、「2021の春までに3億人のアメリカ人を予防接種する」と予定しているが、マイケル・イエードンや、他の何万という医療科学者や開業医の声は、抑圧され無視されている。

イエードンによれば、世界的な予防接種の「このような提案は、完全に必要がないだけでなく、もし、どんな形でも強制によって行われたならば、それは違法である。」

「私は完全に理解し、早期のワクチンの利用を考えるだろう——ただ、完全なインフォームド・コンセントによって、それが行われ、その場合でも、我々の共同体の最も傷つきやすい人々に提供された場合に限る。それ以外の提案は、私には悪の匂いがする。そして私は、これまでパンデミックを追求してきたときと同じように、強力にそれに反対するつもりだ」と、彼は結論した。

[Greatchain 訳注]

これは前の、同じPfizer関連の記事の、冒頭に埋め込まれていたものを訳したものである。この方が内容が詳しくなり、文章が明瞭で読みやすく、突き合わせてみれば理解しやすくなったと思う。これが書かれたのは昨年11月だが、事情はほとんど変わっていないと思う。

ごく最近のニュースを見ても、国連事務総長のあの人（バイデンと同じく、言われているとしか思えない人）が、「ワクチンによる戦いはまだ始まったばかりだ」と言い、ファウチ博士は「6~18か月後に、コロナ注射の必要の爆発が起こる」と言い、ビル・ゲイツは、人口削減が行われているのは事実だと認め、バイデンは、共和党（白人？）全員のワクチン接種を強制すると言い、一方で、Johnson&Johnson社のワクチンが、血栓（blood clot）を起こすとして、販売中止になっている。いずれにしても、全人類を救うにはワクチンしかなく、ワクチンを信ずる者だけが救われ、許されるという（宗教的）真理は絶対のようである。

もしここに、イエードンなどという人の言うことは信用できるのか、疑問だという人がおられたら、試みに、親バイデンと思われる大新聞に、その質問をしてごらんになるとよい。彼らはここぞとばかり、それこそ我々の言っている「陰謀論」の典型だ。そんなものが信用できないウソ（陰謀）である証拠には、今、ほとんど全世界で、イスラエルをはじめとして、すべての政府がワクチンを信じ、それを推奨しているでは

ないか。これほど確かな、信頼できるものはないだろう、と言うでしょう。では、どちらが正しいのか？ それは私にはわかりません。